



都連青年部通信

部落解放同盟東京都連合会 青年部
2019年5.6月号

雇用相談のお知らせ

※緊急の場合はいつでも対応します。労働に係る生活相談等
お困りごとがありましたら気軽に相談ください！！

◆内容:国と都の専任の担当者が仕事探しの手伝いをします。

- ①就職や仕事探しのサポート
 - ②職業訓練や非正規から正規へのキャリア・アップの相談
 - ③失業・求職時の居住や生活費などの生活相談・支援
- ◆費用:無料
◆問い合わせは各支部へ！

問い合わせ

〒111-0024

台東区今戸 2-8-5 東京解放会館内

Mail:moyu.k@blf.tokyo.net

TEL 03-3874-7311

担当:岸本

青年部通信バックナンバー

過去の青年部通信は都連のHPで見ることができます！
QRコードを読み取って都連HPにアクセスしてください！！
青年部だけでなく他の活動記事も見ることが出来ます！



都連青年部で

LINE®を始めました～

まだまだ試行錯誤中ですが多くの青年とつながれるツールにしていきたいと思えます！

ライン@のQRコード読み取って登録をお願いします！！



5.6月 取り組み

- ◆5月9日(木)『反差別人権青年交流会コア会議』
- ◆5月18日19日『全国高校生・青年活動者会議』鹿児島(4P)
- ◆5月22日(水)『狭山青年共闘会議 情宣行動』京成上野駅(2P)
- ◆5月23日(木)『狭山市民集会』日比谷公園野外音楽堂
- ◆5月24日(金)『青年部学習交流会』(3P)
- ◆6月4日(火)『聞き取り活動』中山武敏弁護士
- ◆6月6日(木)『中央青年運動部会議』

— 今後の予定 —

都連青年部学習交流会 6月20日(木)18:00 東京解放会館 3階

今回の学習交流会は映画観賞です！

部落をテーマにした作品を見たあとに意見交換を行います！

狭山青年共闘会議 学習交流会「インターネットと人権」

6月30日(日)13:00 東京解放会館 3階

狭山青年共闘会議では、石川さんが不当逮捕された根源が部落差別であることから、人権について学ぶ機会が大切だと考え学習交流会を行っています。職場や組織の枠を超えて、共に学習し議論する場は、とても刺激となり実り多い学習会となります。

— 狭山事件の再審を 求める駅前情宣 —



石川さんが不当に逮捕されて56年が経過しました。この間、多くの新証拠を提出し石川さんの無実を科学的にも証明されてきました。大詰めを迎えている狭山差別裁判を広く世論に訴えるため、狭山共闘青年会議は5月22日、京成上野駅前で情宣行動を行ない、17名（解放同盟4名、東京清掃労組青年部12名、なんぶ一般1名）が参加しました。

今回はオリジナルのチラシを作成して配布しました。参加した青年は「冤罪・狭山事件を知ってください」と呼びかけました。狭山事件を知っている方にも「がんばれ」と声をかけていただけました。



5月 都連青年部学習交流会 「終わりの見えない福島第一原発事故」

都連青年部では、毎月学習交流会を行なっています。青年自身が学習の内容を考え、調べ、発表します。今回は荒川支部Kが担当し「終わりの見えない福島第1原発事故」をテーマに学習しました。

～2011.3.11 東日本大震災発生～ みなさんは、震災時どこで何をしていたか覚えていますか。おそらく多くの方がテレビにくぎ付けで被災の状況をリアルタイムで見ていたのではないのでしょうか。現地の人たちは、電力が停止し、何が起きているのか分からない状況でした。避難でそれどころではなかったこともありますが、そんな混乱のなか、原発事故が occurred しました。

～止まっても危険な原発～ 事故当時、福島第1原発では、1・2・3号機しか運転していませんでした。4・5・6は定期点検中で運転していませんでした。4号機は停止していたのに事故を起こしています。2つの原子炉で1つの排気塔を共用しているからです。なので、3号機で発生した水素が共用部分を取り、4号機に溜まり水素爆発を起こしたと言われています。ですが、これは全て推測です。原子炉が入っている格納容器の中には人は入れません。だから8年たっても現場検証ができていません。時折、ロボットで撮影した映像が放送されることもありますが、1台何億円もするロボットを何台も投入してたまたまうまくいったものが報道されています。建屋の中には、放射線で動かなくなったロボットが何台も放置されています。

～人体への放射線の影響(1)～ 放射能の影響を人がどれだけ受けるのか表す単位がシーベルトです。自然界にも放射線は存在しているので、みながほぼ年間1ミリシーベルトを浴びています。図1のように、年間1ミリシーベルトを浴びるとするのは、体の全細胞を放射線が1回通過しているイメージです。それくらいであれば修復できますが、線量が増えるにつれ、修復が間に合わず、がんの発症や遺伝子への影響が現れます。

～人体への放射線の影響(2)～ 事故後、ヨウ素が放出されました。その影響の1つに甲状腺がんの多発があります。現在、福島県が当時18歳以下だった38万を対象に甲状腺がん検査を実施し、今も継続しています。図2は、実数ではなく100万人当たりの数値に直したものです。甲状腺がんは自然に発症することもあります。その割合は100万人に1～3人とされています。図の示されたとおり、異常な割合がわかります。しかし、国も福島県も異常とは認めているものの「ヨウ素の被ばく量は少なかった」など計測してもいないのに関係性を否定しようとしています。ヨウ素は、半減期が約8日と短く、すでにほとんどが消えています。事故と関連付ける証拠がない現状があります。また、国は、「過剰に検査しているから、普段の検査で分からないものまで見つかるのだ」などとあきれた主張をおこない、検査をやめようとし、事故をなかったことにしたい姿勢を強めています。

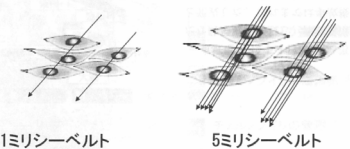
～置き場の無い汚染水タンク・行き場のないフレコンバック～ 炉心を冷やすための海水を建屋にいられています。戻ってきた水は、完全に放射性物質が除去できるわけではなく、どんどん汚染水が溜まっていき、タンクも置き場がなくなっています。国は、無責任にもその汚染水を海に放水しようとしています。また、今でも被災地には汚染土が詰められたフレコンバックが山積みになっています。フレコンバックは経年で穴は空き、雑草は生えるはでスタスタになっています。30年たったら県外に出すという約束だけがある状況です。約束した国や県ですら履行可能とは思っていないのではないのでしょうか。

～故郷喪失に対して～ 避難している人たちが国・東電を相手に裁判を起こしています。国の責任を認めただかどうかも大事ですが、図3のように故郷喪失に対する賠償金が認められました。しかし、金額だけ見たら莫大に見えるかもしれませんが、単純に原告数で割ると、1番多くて200万くらい、少ないと17万です。故郷喪失に対して、生活を新たに始める上での保障に対して、十分だと言えるのでしょうか。

～被災者の思いを共有～ 原発事故は、人間・人生の破壊に直結します。被災者の思いを多くの人が共有できない限り、脱原発は実現できません。そして、それを身近な家族、友人をはじめ多くの人に伝え広めていく事が大事です。地道に、けれど着実に広め、脱原発の世論を形成しなければなりません。私たちは、これからも「反原発」を発信していきます

「ミリシーベルト被ばくするということは？」

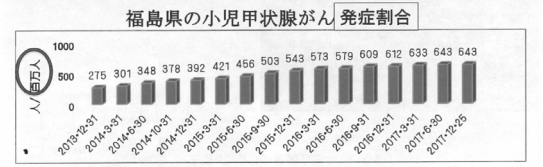
各細胞の核に平均して1本の飛跡が通る



エクス線やガンマ線は
1ミリグレイ=1ミリシーベルト

図1

小児甲状腺がんの多発(2)



一般に小児の甲状腺がんの発生率:1～3人/100万人
2018年現在、悪性・悪性疑いと診断されたことも:273名。
実際に手術を受け、甲状腺がんと診断されたのは:233名。

【国+福島県】数値(発症数)が高いことは認めているが、ヨウ素の被ばく量は少ないはず。チェルノブイリの経験からも事故の影響ではない。
【批判的意見】明らかに異常な発症率である。ヨウ素の放出量は確認できない。母乳等からもヨウ素は測定されており、福島第一原発事故の影響は否定できない。

図2

地裁	判決月	賠償原告と金額
前橋	2017年3月	62人に約3900万
千葉	9月	42人に約3億7600万
福島	10月	2907人に約5億
東京	2018年2月	318人に約11億
京都	3月	110人に約1億1000万
東京	3月	42人に約5900万
福島・いわき支部	3月	213人に約6億1000万
横浜	2019年2月	152人に約4億2000万
千葉	3月	9人に約500万

図3

第5回聞き取り活動

「世代から世代へ～私が歩んできた道～」

都連青年部は4月14日、第5回聞き取り活動を東京解放会館で行ないました。

この活動は、解放運動を支え長年活躍されてきた先輩方の「歩み」を確認し記録に残していくことを目的にしています。

また、この活動を通じて運動や交流の場を広げていくため東日本部落解放研究所、東京都同和教育研究協議会と共同で聞き取り活動に取り組んでいます。

第5回目は、国立支部で活躍されている宮瀧順子さんにお話しをしていただきました。

宮瀧さんからは、自らの生い立ちや部落の現状、家族との関わりや被差別体験、様々な団体との共闘・関係のなかで、自身の差別意識に気づきを得たことなどを語っていただきました。

また、宮瀧さんご自身が原告にもなっている「全国部落調査」復刻版出版事件裁判についてもふれ、現実には差別意識を持っている人がいる中で鳥取ループ・示現舎の行為は恐ろしいことであり、許すことはできないと訴えました。



「理解しあうのは本当に難しい。しかし、簡単ではないがそれが出来ないと目をむけてくれないのでは」と語る宮瀧さん。

支部をはじめ様々な活動に取り組み、内外に積極的に反差別を訴え続けてこられた経験による言葉からは様々な重さを感じられました。

最後に青年たちへのメッセージとして、「色々な立場の人と繋がって欲しい。それは、部落差別を訴えるうえで切り離せないもの。派手じゃなくていい、着実に歩みを」とメッセージをいただきました。

この言葉をしっかりと受け止め、青年部も活動を盛り上げていきたい。



「全国高校生・青年活動者会議」 IN かごしま

全国高校生集会・全国青年集会の成功に向けて活動者会議が5月18日19日、鹿児島市内で行なわれました。13都府県連から49人が参加し、集会の持ち方や分科会の構成について話し合いが行なわれました。

協議の前には、鹿児島県連と九州ブロックの青年が活動報告をしてくれました。青年が集まりづらい状況でも、活動を続けていくことの大切さや、「九州は1つ」という団結力の強さを学ぶことが出来ました。

全国の高校生や青年が集まって、地元での活動についての情報交換や日頃の思いや悩みを共有できる機会はとても大切です。こうした繋がりが運動が深まればいいなと心から思います。

集会では、都連青年部と関東ブロックは「狭山事件入門」の分科会を担当します。各地の活動報告や狭山事件の概要や新証拠の学習、冤罪被害当事者の講演、高裁・高検への要請文の作成を予定しています。参加者にとって意義ある分科会になるよう取り組んでいきましょう。



「知覧特攻平和会」 (鹿児島県南九州市知覧町部)

出撃基地があった場所に建つ知覧特攻平和会館初めて、第二次世界大戦末期において特攻という人類史上類のない作戦で命を落とした陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示しています。

1945年の3月から6月にかけて、知覧から陸軍特別特攻隊機が400機以上飛び立ち、沖縄周辺のアメリカ艦隊に向けて突撃しました。爆弾を抱えて飛行機ごと敵艦に突入するという悲壮「作戦」に志願したのは、20歳前後の優秀な未来ある若者たちでした。その中には幼さの残る17歳の少年もいます。なぜ、彼らは確実に命を落とす作戦に志願できたのか？何を願い…何を守るため…飛び立ったのか？戦争という悲劇を繰り返さないためにも、今を生きる私たちが彼らの決意や覚悟、迷いにふれて思いを馳せることは大切です。そして、決して戦争を賛美するような教育は認めず、戦争できる国づくりを進める安倍政権にNOを突きつけ、平和憲法を守る闘いが重要です。

展示室には、陸軍沖縄特攻作戦で亡くなられた1,036名の隊員の遺影が、出撃戦死した月日の順に掲示されています。また、立体ケースには家族・知人に残した遺書・手紙・辞世・絶筆などが展示してあります。その他にも、陸軍一式戦闘機「隼」や、鳥浜トメさんをはじめと生き残った人たちの証言映像「残された者から」、当時の知覧飛行場を再現した模型「知覧の空」、当時の様子が記録された映像「出撃から突撃」などがあります。

戦史資料展示室では、西南戦争から第二次世界大戦まで、市井の人々がどのように戦争に関わってきたのかを証言映像や資料で紹介しています。他にも零戦や疾風が展示されています。

講和室では、地元知覧町出身の語り部が特攻の歴史的背景と特攻隊員の遺書・手紙等の特色について解説します。この日は、知覧生まれの桑名さんが、戦時中「なでしこ隊」として特攻隊員と交流があったお母さんから聞いた話しなどを交えてお話ししてくれました。

ある青年は、婚約者への手紙で、今後の彼女の幸せを願っていくなか、最後の最後に「会いたい」と綴りました。そして、彼女に貰った白いマフラーを巻いて飛び立ったのです。

朝鮮半島出身の青年は、ずっと自身の出身に触れずにいたが最後の夜に故郷の歌「アリラン」を恥ずかしそうに歌いました。

息子の出撃を聞いた父親が駆けつけると、息子は整備不良で帰還しいて会うことができました。しかし、翌日には、再出撃することが決まっています。親子は最後の夜を共に過ごしました。

